

20. 庄内西小学校PTAへの「魅力ある学校づくり構想」の説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成28年（2016年）5月28日（土）12時～

○場 所：庄内西小学校 多目的室

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>これまで地域説明会等が出た質問についてだが、6/16(木)の庄西子どもを守る会において、具体的な答えを持ってきてもらえるのか。</p>	<p>今回も含めて、地域、PTAの皆様に説明をしているのは、2月20日、21日に行われた説明会の内容です。今回の案についてできるだけたくさんの方々に知っていただき、ご意見をいただいている段階です。これまで数多くのご質問、ご意見をいただきましたが、教育委員会でお答えできるものもありますが、教育委員会だけでは決められない、他部局と検討しなければならないもの、現段階では具体的に検討できないもの等があります。しかし、現段階でお答えできるものを6月16日の説明会では何かしらお示しはできると考えています。</p>
<p>「魅力ある学校」づくり構想の内容、進捗状況、質問意見の集約をしたもの等を、広報とよなかに掲載してほしい。</p>	<p>ホームページも含めて、情報の周知に努めたいと考えています。</p>
<p>小中一貫校の良さをもう少し具体的に教えてほしい。</p>	<p>小中一貫教育のメリットとして、9年間を見通した教育を実践できる良さがあります。小・中学校がめざす子ども像を共有し、9年間を見通した教育課程を編成し系統的な教育をめざしますが、具体的にご説明すると、中学3年生の春、つまり卒業の時にどうなっているべきかをはっきりさせ、そのゴールに向かって小学1年生から教育していくというものです。小学校、中学校、それぞれの先生がお互いに教育内容、授業方法を交流、研究し、その成果を子どもに還元することができます。また、小中一貫校では、小学校の先生が中学生になってもより身近な存在になりますので、中学生にとっては安心感につながります。また、教科担任制を導入し、中学校の先生が5、6年生を教えることで、中学校の先生を中学入学前から知ることができるというメリットもあります。教職員側としては、子どもの必要な情報を中学校の先生といつでも共有できます。学習面、生活面ともに効果があがりやすいと考えられます。</p>
<p>私の子どもの中学校は他学年の校舎に行くな、と指導されている。そのため他学年との交流をほぼしていない。小中一貫校にした時の中学生の反応が気になる。</p>	<p>今の中学校では生徒指導の一環として他学年の校舎に行くことを禁じている学校もあります。小中一貫の観点で考えると、例えば、施設一体型小中一貫校の場合、小学1年生から中学3年生までが同じ校舎で過ごし、異学年交流を盛んに実施できますが、小学生と中学生の教室を隣りに並べるわけではありません。学年ごとに教室をまとめ、どのフロアに何年生を配置するのか、中学生と小学生が安全かつ円滑に過ごせるように動線どうするのか、成長段階に応じて考えなければならないと考えています。例えば、小学生は1、2、3階、中学生は4、5階に配置したり、あるいは、北館が小学生、南館は中学生、その間に交流のための中庭を整備した</p>

	<p>りすることも考えられます。いい距離感で学年ごとに配置し、自然に交流できる校舎配置が望ましいと考えています。</p>
<p>案1と案2、どちらの方が良いのか。</p>	<p>案1、案2、それぞれにメリット、デメリットがあります。案1のメリットは施設一体型なので教職員同士の意思疎通、子どもの異学年交流がしやすくなります。案2のメリットは、校舎等の広さにゆとりがあります。案1のデメリットは、1,000人以上の小中学生が安全に生活する工夫が必要となります。案2のデメリットは、物理的に校舎が離れてしまうので、教職員の意思疎通、子どもたちの異学年交流がしにくくなることです。小中一貫教育の効果を最大限にあげるには案1の方が効果的であると言われております。これらを含めて、どちらの案にするのか、検討していきたいと考えています。</p>
<p>小中一貫教育を実施することで先生の連携が取れるというメリットがあるということだけではなく、子ども側のメリットをもっと教えてほしい。</p>	<p>ひとつには、異学年交流がしやすいことが考えられます。具体例をあげると、中学3年生が小学1年生に絵本の読み聞かせをする、中庭で合唱コンクールの練習をしているところを小学生が観る等、様々な取り組みが可能になります。そうすることで、中学生はやさしい心を育みやすくなり、自己肯定感も向上させることができます。小学生には、中学生という目標もできます。同じ場所にいることで交流しやすいというのがメリットと考えています。</p>
<p>この案をどちらにするかも含めて、どこで決めていくことなのか。我々は意見を言える場はあるのか。</p>	<p>案1と案2のどちらにするのか、決定後、どのようなスケジュールで進めるのかを決めるのは教育委員会です。教育委員会で判断した後、条例改正が必要であり、予算も関係するので市議会に諮り、審議されます。地域の皆さんのご意見は、説明会毎にどのような意見があったか必ず記録しており、教育委員会内で内容を把握しています。直接意見を言うという意味では、今年の秋から冬頃、計画案をお示しする予定であり、その際に、パブリックコメントを実施しますので、忌憚のないご意見をいただきたいと考えています。</p>
<p>小中一貫教育のデメリットを教えてください。</p>	<p>小中一貫教育では、教育課程等9年間を見通した教育をどのように実施するのか等、小中の教職員が一緒になって検討する必要があります。また、小中一貫教育のメリットを最大限活かすためにどんな行事等の取り組みが工夫できるか、会議や打ち合わせも増えます。これまでの仕事に加え、会議、打ち合わせ等の時間が増加することがデメリットと言われております。また、小中学生の交流行事の時間が増えることも、負担と考えられています。施設併用型の小中一貫校なら、校舎が離れているので、校舎間の異動がさらに負担になることが考えられます。</p>
<p>今の小学校、中学校ごとにそれぞれカラーや特徴がある。それらが集まるわけだが、今やらなければならぬことは何か。</p>	<p>現在、庄内地域の6小学校3中学校は、中学校区ごとに小中連携を実践しています。小中連携はもちろんですが、小学校同士がお互いの取り組みを知り合い、良いところは取り入れる動きもあります。近い将来、再編されることを考えると、現中学校区だけではなく、オール庄内で、それぞれの取り組みを知り、共有するこ</p>

	<p>とが大切だと考えています。新しい学校もどのような教育目標でどのような教育をしていくのか、教職員、地域の方々と一緒に考えなければならないと考えています。その際にご協力ください。</p>
<p>義務教育学校とはどんな学校か。この新しい学校は義務教育学校にするつもりなのか。</p>	<p>義務教育学校は平成 28 年 4 月よりスタートした学校の制度です。これまでの小中一貫校は、6-3 製の学制はそのままに、例えば施設一体型の一貫校を作っていました。同じ敷地内に小学校の校長と中学校の校長がいるということになっていましたが、義務教育学校は校長が一人になります。さらに、教育カリキュラムに裁量が与えられています。地域や子どもの実態に応じた、戦略的な取り組みが期待されます。例えば、計算問題が弱い子が多ければ、次の単元までに復習内容の単元を入れたり、次の単元内容が難易度的に段差が大きいのであれば、スモールステップの単元を入れたりすることができます。また、他市事例としては、特色ある教育課程として「ふるさと科」等の独自教科を作り、実践しているところもみられます。義務教育学校は、小中一貫教育を進めるために、学校にある程度の裁量が渡された制度と言うことができます。新しい学校が義務教育学校になるかどうかは未定です。4 月から始まった制度なので、今後実践事例等の情報収集を行い、導入の適否を判断したいと考えています。</p>